

# 写真文化フォーラム、写真文化の推進、連携で共感

東アジア地域の  
写真文化の連携と  
拡大を目指して9  
月20、21の両日、  
東川町農村環境改  
善センターをメー  
ン会場に、東アジ  
ア写真文化国際  
フォーラムを開き  
ました。

写真文化首都宣  
言をした東川町の  
主催。(公社)日  
本写真協会業務執  
行理事、大平温  
(ゆたか)氏、新潟県新発田、沖縄県

浦添、神奈川県相模原、宮城県塩竈、奈良の5市から、「写真の町シバタ」実行委員、吉原悠博氏、(二社)フォトネシア沖繩、東松泰子副理事長、「総合写真祭フォトシテイさがみはら」・角村美文実行委員長、「塩竈フォトフェスティバル」の佐藤巨氏、入江泰吉記念奈良市写真美術館技術員兼古健悟氏の各氏、海外から中国・北京市で三映堂撮影芸術中心運営の榮榮&映里(ロン・ロン&インリ)両氏、台湾東方設計学院撮影学位学程学科長



邱奕堅(チェン・チウイ)氏が来町しました。

「写真文化の推進と広域連携の可能性」をテーマにパネルディスカッションを開き、各地を回る交流・交換写真展、イベント交流、ウェブページ統一に向けた標準化、写真コンテストなどの実現に向けて取り組み検討を進めることが提案さ

れました。

期間中、今年2月に発足した写真文化推進協議会(会長・松岡市郎町長)総会を開き、写真フェスティバル開催など写真文化の振興を進めている新潟県新発田、沖縄県浦添の各団体が新会員となりました。また来年度のフォーラム開催地として、相模原市での開催検討を進めることになりました。

会場では今年までフランス・アルル国際写真祭ディレクターを務めたフランスワ・エベル氏、写真家の石川直樹氏の2人が基調講演しました。

エベル氏は40年間続いているアルル国際写真祭で2002年から13年間務めた大会ディレクターの経験から「人口3万5千人の町に10万人が集う。重

要な要素は、みんなが楽しく過ごせること。アルルの女王を選ぶ、乗馬の文化もある、古代ローマの劇場跡もあり、ここでは闘牛(トレロール)もする。ジプシー音楽もある」と成功の秘けつを話しました。

石川氏は「世界を旅する」と題して、「北は北海道からサハリンまで、南は東南アジアの島々までをもう一度回ってみようとしている最中。知っているつもりの方も、もう一度自分の目と写真を通して見出ししていきたいと強く思っている」と話しました。

▼写真文化推進協議会員は次の通り(順不同)。東川町、フォトシテイさがみはら実行委員会(神奈川県相模原市)、阿智村(長野県)に加え、(一法)フォトネシア沖繩(沖縄県浦添市)、写真の町「シバタ」・プロジェクト実行委員会(新潟県新発田市)

## 豊作期待〜2年続きの8月稲刈り、新米初出荷

9月3日、町内で新米出荷が始まりました。今年が一番出荷は、3年連続で東倉沼、山崎雅文さん(65)。「ゆめぴりか」34俵(1俵60キログラム)は、全量最高ランクの1等米となりました。

前月26日、道内一早くトップを切つて稲刈りした新米です。「今年は穂数が多く粒も大きい」と4年連続の豊作に期待膨らむ出荷になりました。

8月中の早い稲刈りとなりましたが、「まだ少し青い」状態ながら、水分15・6%、精米たんばく含有量6・7%、アミロース含有量15・3%、整粒歩合82%と、昨年以上に素晴らしい成績。山崎さん方では「おぼろづき」

「ほしのゆめ」も加えて9月10日ごろに3品種そろって稲刈りの最盛期を迎えました。



町内の稲刈りは15日ごろにかけてピークを迎え、作況指数106以上の「良」と豊作基調のうれしい出来秋となりました。